令和2年度 群馬東部水道企業団水道料金審議会 (第1回)

# 群馬東部水道企業団の広域化について

令和2年8月5日

# 1 広域化

- 1-1 企業団概要
- 1-2 企業団設立の経緯
- 1-3 課題分析(基本構想・計画)
- 1-4 群馬東部水道企業団の設立

## 1-1 企業団概要

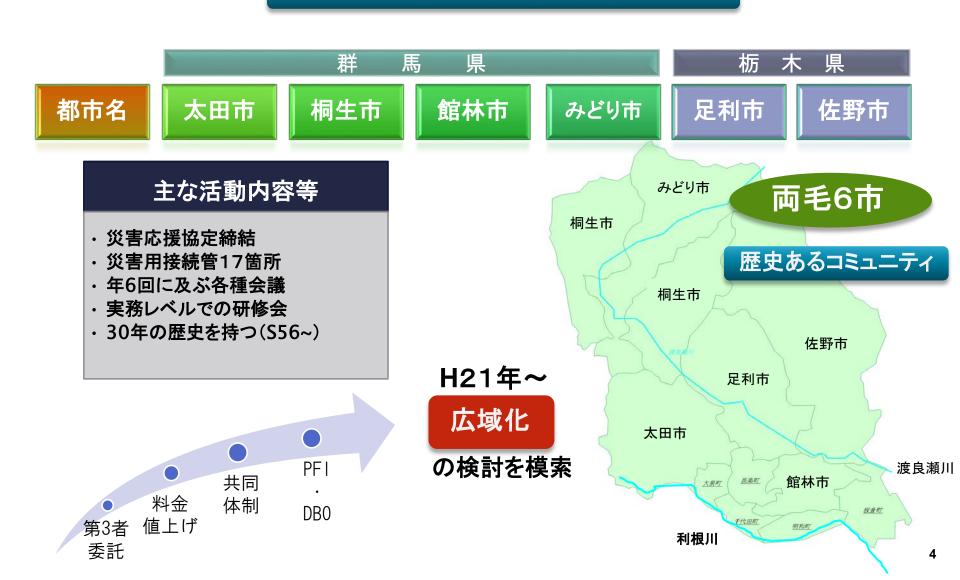


団体名	給水人口 (令和元年度)	水道料金 Φ20 20㎡(2ヵ月)		
太田市	22万4千人	4, 279円		
館林市	7万5千人	3, 400円		
みどり市	4万9千人	4, 730円		
板倉町	1万5千人	3, 080円		
明和町	1万1千人	2, 970円		
千代田町	1万1千人	3, 300円		
大泉町	4万2千人	4, 664円		
邑楽町	2万6千人	3, 080円		
合計	45万3千人			

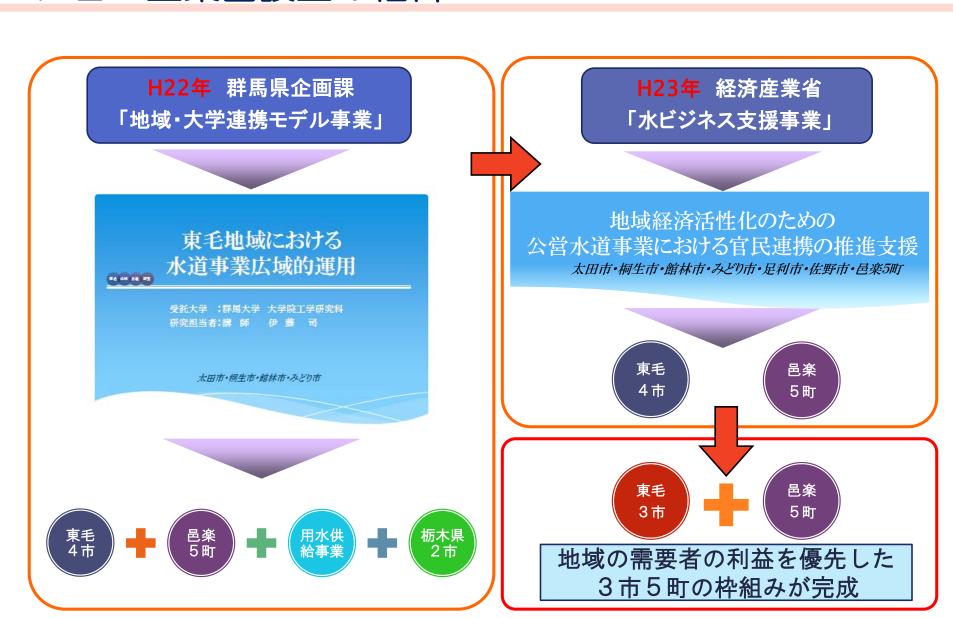
給水人口 45.3万人·事業収益 100億円 県内最大規模の団体として安全·安心·安定を目指す

# 1-2 企業団設立の経緯

#### 両毛地域水道事業管理者協議会



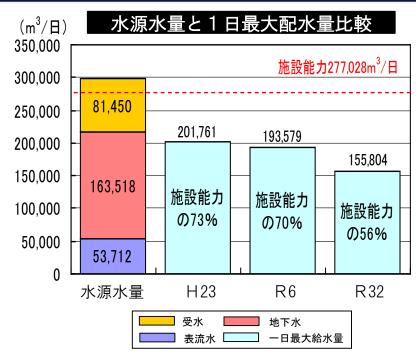
### 1-2 企業団設立の経緯



# 1-3 課題分析(基本構想・計画)

#### 将来水需要予測





年度	人口	給水量	施設使用率	
R6	△18,652 人 △4.1%	△14,770 m3/日 △8.4%	稼働率70%	
R32	△102,203 人 △22.6%	△45,722 m3/日 △26.0%	稼働率56%	

人口減少

施設余力増

0

施設の統廃合

0

# 1-3 課題分析(基本構想・計画)

#### 事業計画(事業費と費用削減効果)





再構築事業費

平成27年度~令和6年度

約54億円



老朽施設更新費

平成27年度~令和6年度

約283億円



費用削減効果

- ・施設再構築による統廃合等
- ・国庫補助活用による投資額
- ・包括委託拡充による人件費等

10年間で約17億円削減

10年間で約97億円削減

年間で約2.5億円削減



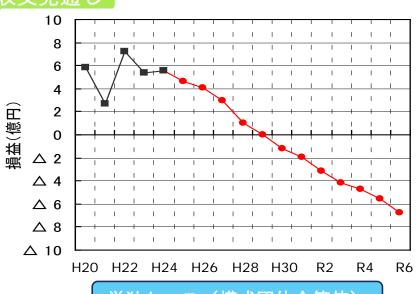
10年間で総額約139億円の削減

# 1-3 課題分析(基本構想・計画)

#### 財政計画(財政シミュレーション)

#### 収益的収支見通し





単独ケース(構成団体合算値)

#### 《単独ケース》

太田市	館林市	みどり市	板倉町	明和町	千代田町	大泉町	邑楽町
R 4	R 4	H 2 9	H 2 5	H 2 8	H 2 8	H 2 8	H 2 8
赤字	赤字	赤字	赤字	赤字	赤字	赤字	赤字



《広域化ケース》

企業団経営

R6まで 黒字確保

# 1-4 群馬東部水道企業団の設立

#### 広域化を振り返って

H2

両毛地域水道事業管理者協議会 広域化の議論開始

H24

群馬東部水道広域研究会設立3市5町の枠組み決定

H28

・群馬東部水道企業団スタート

企業団スタート まで約7年

#### まずは広域化

広域化後に調整可能な大きな課題(料金統一)は広域化後に調整することとした。

#### 官民連携の推進

包括委託により通常業務を離れ、広域化の事務調整に時間を割くことができた。



POINT